

あなたとわたしの You&Me 新風景

「女だから」「男だから」という枠を外すと見えてくる女と男の新風景。このコーナーでは、自分らしい生き方にチャレンジしている市民の方々をご紹介します。



自分の個性を生かし 心のケアができる看護師を目指したい

看護師 林晋也さん

自分にあった仕事を選び、やりがいを持って働けることほど幸せなことはありません。男女共同参画社会とは、一人ひとりが自分の可能性を生かし、個性を発揮できる社会です。

「ひとやでいうと世話好き。困っている人がいるとほっとけないタイプなんです。そんな自分の個性を発揮できると思い、この仕事を選びました」

市内にある病院で看護師として働く林晋也さん。この仕事に就いて3年目の現在、外科・内科混合病棟で活躍しています。

しかし看護師というと、一般にはまだまだ女性の職業というイメージがぬぐえませんが、林さん自身もこの仕事を選ぶにあたり、果たして男性の自分に務まるかどうか迷った時期がありました。

「そんなとき、背中を押してくれたのが両親でした。お前の性格にあっている。自信を持って進みなさいと励ましてくれたのです」

看護師は人の命に携わる仕事。的確な処置や精神的なケアなど、常に細心の注意が要求されます。最初の1年は緊張の連続だったという林さん。3年目のいまはだいぶ慣れ、徐々に仕事の面白さを感じられる余裕も出てきました。

「ケアする立場なのに、患者さんから学ばせていただくことが多いです。声のかけ方一つで、患者さんの回復力がまるで違うんですね。」

この先、より質の高い技術を身につけていくことが大切ですが、それ以上に患者さんのデリケートな心を癒してあげられる、そんな看護師を目指していきたいですね」

この先、より質の高い技術を身につけていくことが大切ですが、それ以上に患者さんのデリケートな心を癒してあげられる、そんな看護師を目指していきたいですね」



上司からのメッセージ



看護部長
佐藤峰子さん

当病院では林さんを含め、現在2名の男性が看護師として立派に活躍しています。

かつて看護は看取り護るという考えから、女性の仕事とされてきた面がありました。しかし、私の経験からも、患者さんをケアする仕事に男女の向き不向きはないと思います。大切なのは一人の人間として、患者さん一人ひとりの立場にたった看護ができるかどうかではないでしょうか。林さんの働きぶりを見ていてもそのことを強く感じますね。当病院は高齢者が対象なので、特に高齢者の気持ちに寄り添うケアが必要となります。今後男性だから、女性だからではなく、その人の人間性を重視した採用を行っていきたいと思います。